

アジアにおける持続可能な土地利用の形成に向けて

Towards Sustainable Land Use in Asia (SLUAS)

氷見山 幸夫 (HIMIYAMA YUKIO)

北海道教育大学・教育学部・教授



研究の概要

陸域一縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生に向け、土地利用及び関連する諸問題に焦点を当て、地球情報基盤の整備、分野横断的研究の推進、政策の推進と教育の充実を緊密に連動させた総合的研究を、日本、中国、インドを含むアジア諸国について行っています。持続可能な土地利用への重大な脅威である東日本大震災などの大規模災害にも取り組んでいます。

研究分野：環境地理学、地球人間圏科学、土地利用、地球環境問題

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：アジア、陸域、土地利用、GLP、LUCC、地球情報、東日本大震災

1. 研究開始当初の背景

日本学術会議は2008年7月に提言『陸域一縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生へ向けて』を公表しました。その実現の一端を担うため、土地利用に焦点を当て、提言の柱である地球情報基盤の整備、分野横断的研究の推進、政策の推進と教育の充実を統合する総合的研究をアジアで行います。

2. 研究の目的

地球環境危機の時代の、制約的条件下における土地利用の在り方とそれに至る道筋を提示し、また土地利用に関連する地球環境・災害問題や食糧問題の解決に役立つ知見とオリジナル地図などの資料を提供します。

3. 研究の方法

長期的な土地利用変化の実態とメカニズムおよび関連する諸問題を正確かつ広域的に把握すべく土地利用図、衛星画像、GPS搭載カメラ等を駆使した広域調査を行い、新旧地図類・統計等のデータベース化や、地理的

土地利用情報ベースの開発・分析を行います。

4. これまでの成果

出版 SLUAS Science Report “Towards Sustainable Land Use in Asia(I),(II)を刊行し、(III)も間もなく完成します。これらにはアジア各地の土地利用変化とそれに関する地図、情報、研究成果が網羅されています。他にも土地利用科学の立場から持続可能な社会に向けた執筆活動を精力的に行い、多くの国内外の雑誌等で公刊しました。

集会 国際地理学連合(IGU)、日本学術会議、日本地球惑星科学連合等と連携してアジア各地および国内で多くのシンポジウム等を主催・共催・後援し、このプロジェクトの研究成果の発信と普及および広範な研究者との交流及びネットワーク化を図りました。特に日本学術会議と共催した学術フォーラム「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への道」は三百数十名の参加者を得て大きな成果を上げました。

アウトリーチ 日本学術会議の関連委員会、

特に地球人間圏分科会、IHDP分科会、およびGLP小委員会と連携し、前記の提言の具体化と地球環境研究に関する新たな提案の取り纏めに貢献しました。また研究成果の社会への還元、特に教育への反映に努めました。

5. 今後の計画

アジアの持続可能な土地利用の形成に向けて、今後も土地利用・災害に関する地球情報基盤の整備、実態把握と問題解決のための分野横断的研究の推進、持続可能で安全な土地利用に向けた政策の推進と教育の充実に積極的に取り組みます。人口の肥大、社会・経済の急激な変化、地球環境問題の深刻化、大規模自然災害の増大などにより、土地資源の有限性に関する問題が日本を含むアジア各地で深刻化しつつある実態が益々明らかになっていますが、それに関する社会の認識はまだ低く、データ整備や関連する研究も遅れています。このような状況の改善に資する研究成果を、これからも発信してゆきます。特に東日本大震災から得た教訓をアジアだけでなく世界の持続可能な土地利用の形成に活かせるよう、国際的発信にも尽力します。

6. これまでの発表論文等 (受賞等も含む)

Himiyama, Y., R. Maeda (2012.3): Land Use/Cover Change in West Java Province in Indonesia since the 1990s, Reports of the Taisetsuzan Institute of Science, No. 46, pp.17-32.

氷見山幸夫 (2011.10): 土地利用から見た復興計画. 歴史と地理 No.648, pp.8-17.

Himiyama, Y. ed. (2011.8): SLUAS Science Report 2011 - Towards Sustainable Land Use in Asia (II), SLUAS Project Office, 190 pp.

氷見山幸夫(2011.8a): アジアの暮らしと土地利用変化. 地理, 第 56-9 号, pp.28-35.

氷見山幸夫(2011.8b): 中国東北部における土地利用. 地理, 第 56-9 号, pp.50-56.

氷見山幸夫, 家入麻友美 (2011.3): ロシア沿海地方ウラジオストクーハンカ湖付近の1980年頃以降の土地利用変化, 大雪山自然教育研究施設研究報告, 第 45 号, pp.55-70.

氷見山幸夫(2011. 1): 砂防学講座「日本の国土の変遷と災害」-日本の国土の変化(土地利用変化). 砂防学会誌, Vol. 63, No. 5, pp.62-72.

Himiyama, Y. ed. (2010.6): SLUAS Science Report 2010 - Towards Sustainable Land Use in Asia (I). SLUAS Project Office, 239 p

土居晴洋 (2011): 宮崎県における近現代の土地利用変化, 『地理』56巻, 9月号, 74-83.

Doi Haruhiro (2011): Recent trends of housing development in Beijing, SLUAS Science Report (II), pp.1-18.

木本浩一 2011 南インドにおける土地利用. 『地理』, 56(9):57-63.

木本浩一 2011土地利用からみた都市「近代化」-変化と媒介-. 『歴史地理学』, 53(1): 55-70.

熊木洋太・高圓省三・伊藤友章・鈴木康弘・美澤綾子・井田仁康・春山成子・田村俊和・平井幸弘(2011.12): 地理で学ぶ防災. *E-Journal GEO*. 6(1). 72-80pp.

S. Haruyama, K.Thwe Hlaing (2011.9): Land Cover Change of the Bago River Basin in Myanmar, SLUAS Science Report (II), pp.145-162.

春山成子(2011.10):「災害軽減と土地利用」、古今書院、223p.

季増民(2012):1.長江デルタにおける都市拡大の比較研究-無錫市と昆山市を事例に、『椋山女学園大学研究論集』第42号、19-46.

楊山、周蕾、陳昇、季増民.(2010): 大規模投資建設背景下城市過度拡張の約束機制(中国語)、『地理科学进展』29 卷 10 号、1193-1200.

ホームページ等: なし